

令和7年度

### 撫養小学校 「学力向上実行プラン」

#### 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①自ら考え、判断し、創造できるたくましい子どもの育成
- ②言語活動を充実させた教育活動の充実

校長

学力向上推進員

校長・教頭・教務主任・研修主任  
各学年主任・特別支援教育コーディネーター

#### 【各校の取組状況の把握について】

管理職による日々の授業参観、子どもへのアンケート結果の分析、教員からの報告等、さまざまな機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

#### ◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

##### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○80%以上の児童が漢字や計算の力が付いてきていると実感し、ほとんどの児童が意欲的に学習に取り組んでいる。 ●習得した知識や技能の定着が十分でない児童が少なからずおり、その差は学年が上がるにつれて大きくなっている。	・学習活動に意欲的に取り組み、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることができる。さらに、新しく出会う課題に活用できる。 ・学校評価アンケートで「漢字や計算の力が付いてきている」と回答する児童の割合が90%以上になるようにする。	・朝の学習(チャレンジタイム)や授業の中で、漢字・計算のミニテスト・チェックを実施し、一問一問にじっくり取り組む時間を確保する。 ・AIDリルやプリント集を効果的に活用し、自分の課題にあった問題に取り組むことができるようにする。 ・ミニ作文を実施し、その中で習った漢字や言葉を使ったり、新しい言葉の意味を調べて使ったりし、語彙力を増やせるようにする。	・取り組み方に変化を付け、さらに達成感を感じられるようにミニテストやチェックを引き続き実施していく。 ・ミニ作文や日記等は、どんな場面で習った知識(語彙)が生かせるかその都度子どもたちと考え、伝える時間を増やす。	・単元末等にミニテスト・チェックを実施することができ、テストでも基礎的・基本的な問題の正答率が高かった。しかし、学習から時間が経った後の復習までできておらず、確かな定着とは結びついていない。 ・チャレンジタイムの活動にAIDリル・コグトレの曜日を設定したことで、児童がより意欲的に自分に合った問題に取り組む事ができるようになってきた。 ・学校評価アンケートで「漢字や計算の力が付いてきている」と回答する児童の割合は84%となった。昨年度とほぼ横ばいである。	・児童の実態把握ができるように、AIDリルの取り組み状況を必要に応じて確認するようにする。 ・児童が「できた」という実感をもてるように、引き続き、AIDリルや、ミニテスト・チェック、ミニ作文を実施し、また、学習から時間が経っている内容についてもじっくり取り組む時間を確保する。

##### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の思いや考えを書くことや、積極的に伝える児童が少しずつ増えている。 ●自分の考えもち、表現することに苦手意識をもつ児童がいる。また、個人差も大きい。	・例や仲間の考え・意見をもとに自分の考えをもち、選択することができる。 ・目的や相手に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを表現することができる。 ・学校評価アンケートで、授業中、自分の意見や考えたことを表現している児童の割合が75%以上になるようにする。	・聞く姿勢・話す姿勢、また話し方の型を示して練習し、基本的な伝え方を定着させ、安心して発言できるようにする。また、指名の工夫をし、意見を繋げることができるようにする。 ・発問では理由や根拠を尋ねるようにする。また、スピーチの際には、5W1Hを交えた内容で発表できるようにし、質問タイムは「なぜ」「どんな」を問うようにする。 ・書く・話す活動では、例を挙げる。また、書いた物や録音した物を仲間と見たり聞いたりしあう時間をとる。 ・自分の考えをもてるように、ペアやグループ活動でホワイトボードやタブレット、具体物を有効的に活用し意見交流する場を設定する。	・だんだんと聞く・話す姿勢・話形が定着しつつある。引き続き、学年に応じた指導をしていく。 ・「なぜ」と問うたあと、他の児童に「○○さんが言ったことはどういうことかな」などと問い返し、自分の言葉で考えを整理できるようにする。 ・児童が書いたもの・録音したものを教師が校正するだけでなく、児童同士で良い点や改善点を伝え合う場を適切に設定していく。	・例を黒板に示したり、ワークシートを作って示したりすることができた。児童同士で見たり聞いたりすることで、参考にしたり書いたり、自分の考えを見直したりする姿が見られた。 ・話し方の型が身につけてきた児童が多く見られ、児童同士で教え合う姿も増えてきたが、一定数「何をどう伝えていいのか」「何を問われているのか」理解が十分でない児童、また、自分の考えをもてない児童がいる。 ・学校評価アンケートで、授業中、自分の意見や考えたことを発表している児童の割合が67%となった。目標までは届かなかったが、昨年度より8.5%上昇した。思ったことを文章で書いてまとめることができるのは74.5%だった。	・自分の考えをもてるように、話すことと書くことを行ったり来たりし、児童同士で意見交流することで、自分の考えを構築できる活動を取り入れていく。 ・引き続き、効果的にグループやペア活動を取り入れる。 ・児童が表現する際に、教師が様々なツール・方法を提案できるように研修していく。

##### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業での活動や問題解決に、真面目に取り組むことができる。また、進んで学習のめあてをたてること、学習をふり返り、まとめる児童が増えてきている。 ●自ら進んで課題発見をしたり、学習計画を立てたり、また、次につなげる積極性が見えづらい。	・各教科等の学習で仲間と協働的に課題発見や学習計画を立てることができる。 ・学習と学習、学習と生活を結び付け、先生や友達に伝えたり、自主学習でまとめたりすることができる。 ・学校評価アンケートで、ねばり強くがんばり続けることができる児童の割合が90%以上になるようにする。	・なぜ学習をするのか、学習と生活、学習と学習を結び付ける声かけや、めあてを設定をする。 ・課題発見し学習計画をたてることのできるように、目的意識・相手意識のある授業づくりをする。 ・自分の課題を把握するためにふり返りの時間を確保し、自分の課題解決に取り組むことができるようになるために、自分で学びたいことを選んで学習すること(自主学習など)を取り入れる。	・学年に応じて、単元の最初に学習計画を児童が立てられるようにする。 ・振り返りシートやワークシートの改善をする。	・ふり返りを生かした授業づくりをすることで、授業を児童とつくりあげることができた。 ・学習と生活、学習と学習のつながりを意識した声かけをすることで、児童自身で問題発見をしたり、学びたいことを見つけたりする姿が見られるようになってきた。しかし、興味をもてない児童は進んで取り組めなかった。 ・学校評価アンケートで、ねばり強くがんばり続けることができる児童の割合が84%となった。昨年度からほぼ横ばいである。	・段階を踏んで、単元や授業のはじめに学習計画をたてられるようにし、最後まで学びきる姿勢を育てていきたい。そして、ふり返りを通して、自分が学んだ跡を実感できる活動を取り入れていく。 ・児童が興味をもてるように、単元・授業の導入を工夫したり、児童実態を把握して生活と学習・学習と学習をつなげたりしていく。